



平成23年9月29日

大阪経済記者クラブ会員各位
(同時資料提供＝大阪市政記者クラブ)

大阪商工会議所 地域振興部
課長 中川 英樹
電話：6944-6323
大阪市ゆとりとみどり振興局観光室
大阪城魅力担当課長 合田 寛
電話：6469 - 5154
大阪市計画調整局計画部
企画調整担当課長 塩谷 尚俊
電話：6208-7808

大阪城公園観光拠点特区の申請について

大阪商工会議所と大阪市は共同で、「大阪城公園観光拠点特区」の指定を平成23年9月30日(金)に内閣官房に申請します。

両者は、平成22年7月から大阪城を核にした観光振興に共同で取り組んでおり、同年9月には国の総合特区制度設計に伴う提案募集に際しても、共同提案いたしました。以降、提案内容について検討を重ねてまいりましたが、今般、総合特別区域に係る指定申請の募集が開始されたのに伴い、地域活性化総合特区として「大阪城公園観光拠点特区」を申請することになりました。

なお、本特区申請に先立ち、官民一体となった推進体制を確立することを目的として、大阪市、大阪府、大阪商工会議所による、「大阪城公園観光拠点地域協議会」を組織し、平成23年9月22日に第1回協議会を開催し、協議を経て申請することとなりました。

大阪を代表する観光地である大阪城公園は、都心の公園として広く市民に親しまれていると同時に、その大半が特別史跡大坂城跡として国の指定を受けています。特区制度を活用することで、水と緑豊かな都市公園であり、歴史的文化的資産が集積する特別史跡である大阪城公園のポテンシャルに磨きをかけ、民間の知恵と活力を取り入れた事業の実施を通じて、新たな魅力を備えた国際的な観光拠点としての整備を促進します。

具体的には、もと市立博物館等の民間事業者による活用、本丸の地下に眠る豊臣期の石垣の公開や新たな観光賑わい施設の整備などを進めるにあたり、公園の有効活用にかかる規制緩和や、税制上での特例や財政上の支援措置などを盛り込み、民間事業者が参入しやすい環境整備を図ることで、大阪城公園の観光拠点化を図ります。そして関西、西日本の観光地と連携することで、日本経済を牽引する国際的な観光地として、経済発展の著しいアジア圏をはじめとする海外からの観光客の増加を目指します。

本特区申請は、大阪商工会議所が平成23年度から3カ年計画で取り組む成長ビジョン「千客万来都市 OSAKA プラン」の一環として、大阪市と協働して実施するものです。

以上

<添付資料> 特区申請書(概要版)

地域活性化総合特区：
大阪城公園観光拠点特区の指定申請書(概要版)

2011年9月



大阪城公園観光拠点特区の指定申請について (1)

特区の区域

大阪を代表する歴史公園である大阪城公園(エリアA:約106ha)は、水と緑豊かな都市公園であり歴史文化的資産が集積する特別史跡である。これらのポテンシャルに磨きをかけ、関西、西日本を代表する観光地として整備するため大阪城公園全域を特区指定区域とする。

また、隣接するNHK跡地(エリアB)は、大阪城公園と難波宮跡との結節点であり交通の要所でもある。その立地ポテンシャルを活かして大阪城公園の観光拠点化と連動した、集客観光機能の充実を図るため特区指定区域とする。

規制の特例措置等との関係

特例措置等の想定	エリアA	エリアB
都市公園法	○	
国有財産法	○	
文化財保護法	○	○
消費税法	○	○
税制支援措置	○	○
財政支援措置	○	○



総合特区により実現を図る目標

<定性的な目標>

背景としての我が国の目標

- ・訪日旅行促進事業(ビジットジャパン事業)に定める訪日外国人3000万人プログラム
- ・新成長戦略“魅力的な観光拠点となりうる都市・地域に集中投資”

(総合特区の目標)

大阪を代表する観光地である大阪城公園のポテンシャルに磨きをかけ、新たな魅力を備えた国際的な観光拠点として整備し、関西、西日本の観光地と連携することで、日本の経済を牽引する国際的な観光地として経済発展の著しいアジア圏をはじめとする海外からの観光客の増加を目指す。
これにより、我が国の国家的な目標である海外からの訪日旅行の促進や、関西国際空港のハブ空港化および利用促進に貢献する。

<数値目標とその考え方>

- ◇数値目標(1) ※いずれも2009年度→2019年度
大阪城への外国人訪問率10% → **15.0%へ**
大阪城への外国人訪問者数68万人 → **375万人へ**
- ◇数値目標(2)
大阪城への外国人訪問者による大阪での観光消費額180億円 → **1100億円へ**

訪日外客のうち約10%が大阪城を訪問していると現在想定されるところ、10年間でその1.5倍の15%を達成し、我が国の代表的な国際観光拠点として訪日外客増加の牽引を目指す。
(※2010年JNTO調査によれば、明治神宮、皇居、上野公園それぞれへの訪問率は概ね15~20%)

政策課題と解決策

<政策課題>

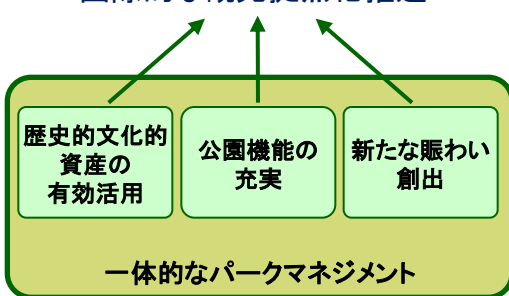
我が国の「訪日外国人3000万人プログラム」での目標を受け、本市ではさまざまな観光プロモーション事業を展開している。また平成22年度策定の大阪市経済成長戦略では「集客・観光」を重点産業分野の一つとし、包括的かつ戦略的な施策展開を図るとともに、同年策定した大阪市観光振興戦略では、重点エリアと位置付けた大阪城・難波宮エリアの核として、**大阪城公園の国際的な観光拠点化を推進**することとしている。観光を通して訪問者に日本の歴史や文化に親しんでいただくとともに、大阪・関西の活性化に寄与できる拠点を目指す。

<解決策>

特別史跡と都市公園としてのポテンシャルに磨きをかけ、一体的なパークマネジメントのもとで、観光地としての魅力を向上させるための各種事業を実施する。

- ①歴史的文化的な資産の有効活用事業
- ②公園機能の充実事業
- ③新たな賑わい創出事業
- ④一体的なパークマネジメント事業の検討

大阪城公園の国際的な観光拠点化推進



取組の実現を支える地域資源等の概要

- ・大阪城の重層的な歴史的文化的遺産 (世界に誇る築城技術、多数の重要文化財、豊臣期の石垣等)
- ・大阪城が有する国際レベルのブランド価値 (日本有数の名城、古来より国際交流拠点等)
- ・地理的には市内中心に立地。利便性も高いため、他エリアとの連携、回遊性が高い。
- ・周辺には難波宮、大阪歴史博物館などの歴史的施設のほかテレビ局等もあり、連携により歴史・文化の情報発信が可能。
- ・隣接する大阪ビジネスパーク駅周辺・天満橋駅周辺エリアは、都市再生緊急整備地域として指定をうけるべく準備中。周辺と連携した環境整備を行う。
- ・大阪城天守閣は、1931年に市民の寄付により建設された。大阪城は市民の誇りである。

※詳細は別紙1を参照

大阪城公園観光拠点特区の指定申請について (2)

事業の内容

事業名	具体的な取り組み内容	想定主体	先駆性	熟度に関する事項	関連特例措置
① 歴史的文化的資産の有効活用事業	1 もと市立博物館および大阪砲兵工廠化学分析場の有効活用	民間公募	・戦争遺跡として価値の高い近代建築物を、民間の資金とアイデアを活用し賑わい拠点として再生する。単なる箱モノ再生でなく、立地特性を活かし、公園の活性化と連動した事業として実施。	・先導的官民連携支援事業(国交省)の助成案件として事業スキームの検討着手 ・24年度に公募開始予定	1. 2. 3. 4. 5
	2 現存する歴史的建造物(重要文化財)の公開、活用	大阪市	重要文化財や石垣を資産として活用し、大阪城を体感する仕掛けや仕組みを検討する。歴史的価値が高い文化財を観光資源として活用することは、特別史跡大坂城跡の国際的な観光拠点化ならではの取り組み。	・23年度に常時公開に向けた社会実験を実施 ・既存ボランティアガイドあり	
	3 本丸エリアの地下に眠る豊臣期地下石垣公開	大阪市	豊臣期の遺構を公開し、観光拠点の魅力向上のために活用する試みは、重層的に歴史的文化的資産が集積する大阪城独自の新たな取り組み。	・一部遺構の発掘調査確認済	5
② 公園機能の充実事業	1 便益施設(売店・カフェ・休憩所)の再編、設置	民間公募	特別史跡にふさわしい環境整備を行うのに合わせて、本丸内の既存売店を撤去し、それに代わる観光機能を付加した便益施設を設置。	本丸地区の基本計画を策定するとともに、新たな便益施設の民活事業の公募を平成24年度に開始する予定	1. 2. 3
	2 公園利用の活性化(イベントの日常化、園内アクティビティの強化、情報発信スタジオ創設等)	・大阪市 ・新たなパークマネジメント手法の中で実施主体を検討	個々の公園機能の充実事業を、一体的なパークマネジメントの仕組みの中で、連携しながら実施する手法を検討。	・先導的官民連携支援事業(国交省)の助成案件として選定済み ・大阪迎賓館については、大阪府が民間と連携し、23年度から実験的に活用を開始している。	
	3 大阪迎賓館の有効活用				
	4 園内移動モビリティの導入				
③ 新たな賑わい創出事業	1 新たな観光賑わい施設の整備事業(飲食・物販集客施設、観光案内所等)	民間公募	観光地大阪城のポテンシャルを活かした新たな集客観光賑わい施設を民間事業者によるプロポーザル提案方式で設置。		1. 2. 3. 6
	2 昼夜楽しめる魅力づくり(メインストリートの樹木ライトアップ等)	・新たなパークマネジメント手法の中で実施主体を検討	大規模な石垣を始め徳川時代の歴史文化的遺構が集積する特別史跡大坂城跡としての価値と、水と緑豊かな市民の憩いの場として親しまれている都市公園としての価値に磨きをかけ、世界に誇る観光地として様々な仕掛けや仕組み作りを行うことが大阪城独自の取り組み。	・事業化について周辺の民間企業からなる大阪城周辺地区活性化協議会で合意。民間事業者において検討が進められている	
	3 大規模イベントなどエンターテインメントの創出				
	4 市民ボランティアの活用				
④ 一体的なパークマネジメント事業の検討		大阪市および大阪商工会議所の共同実施	市民が安全かつ快適に公園を利用できるように適正な維持管理を行い、かつ、集客観光的な観点から公園全体のマネジメントを行う仕組みは、特別史跡であり、都市公園であり、観光地である大阪城ならではの先駆的な取り組み。	・先導的官民連携支援事業(国交省)の助成案件として選定済み	

新たな規制の特例措置等の提案

<規制の特例措置>

1. 都市公園法における管理許可期間の延長
2. 同法における設置可能な便益施設に関する要件緩和
3. 国有財産法における無償貸付地の要件緩和
4. 同法における国有不動産の管理処分方式の見直し
5. 文化財保護法における現状変更の制限に関する許可基準の緩和
6. 消費税法における輸出品販売場に係る各種規制の緩和

<税制支援>

7. 本件事業への投資に対する税額控除または特別償却
8. 所得控除

注:国際戦略総合特区を想定して創設された上記税制支援措置を本件特区にも適用いただくことを提案する。

<財政支援>

9. 既存予算制度の弾力的な運用(都市公園事業や文化財保護事業の支援拡充)

大阪城公園観光拠点特区の指定申請について (3)

地域の責任ある関与

<体制強化>

- ・大阪城公園の観光魅力向上に向けて、具体的な施策を展開するため、大阪市ゆとりとみどり振興局において、大阪城魅力担当を設置。(H23年4月設置／人員5名)
- ・地域協議会メンバーに大阪市、大阪府に加え、大阪商工会議所が参画。官民一体となった推進体制を構築

<その他の措置>

- 1 本年度より関連事業を実施
(もと市立博物館の有効活用、既存の売店撤去と跡地活用、現存する歴史建造物の常時公開に向けた調査、大阪城、天守閣復興80周年記念プロジェクトとしての「大阪城公園迎賓館ウエディング80」事業実施等)
- 2 国交省の先導的官民連携支援事業の助成案件選定
(大阪城公園パークマネジメント事業、もと市立博物館など既存建造物の民間活用事業等)
- 3 周辺エリアの都市再生緊急整備地域の指定にむけた取り組み
(大阪ビジネスパーク駅周辺・天満橋駅周辺エリア)

事業全体の概ねのスケジュール

<事業全体のスケジュール>

<計画検討および具体化>

- 地域活性化特区の提案
- 先導的官民連携支援事業の調査
- 大阪城の歴史文化遺産を活かした観光魅力の検討の実施
- マスタープランの策定
- 天守閣復興80周年プロジェクトの実施
- 重要文化財の実験的活用事業開始

プロジェクトスタート

ホップ!

ステップ!

大坂冬の陣、夏の陣から400年

<先導的プロジェクト始動>

- もと市立博物館や旧砲兵工廠化学分析工場の活用
- 新たな便益施設の設置
- 新たな観光賑わい施設の設置
- 大坂冬の陣、夏の陣400年記念イベントの開催
- 一体的なパークマネジメントによる管理運営

2010-11

2014-15

2019

<地域協議会及びその前身の活動状況>

- ・2010年12月より、大阪商工会議所をはじめ民間事業者が主体となっている大阪城周辺地区活性化協議会では、大阪城公園の国際的な観光拠点化に向けた検討会を実施し、さまざまな提案を行っている。2011年9月の時点で、すでに累計8回の協議を実施している。
- ・2011年9月、大阪市、大阪府、大阪商工会議所をメンバーとする地域協議会を設立。

<経緯>

- H22年12月：大阪城周辺地区活性化協議会を設立
- H23年 5月：地域協議会設立に向けたワーキングを開始
- H23年 8月：大阪城公園観光拠点地域協議会の設立準備
- H23年 9月：大阪城観光拠点地域協議会の設立、第1回全体会議を開催

大阪城への外国人訪問率 15.0%へ!
大阪城への外国人訪問者数 375万人へ!

国際観光拠点化

● 数値目標の達成

ジャンプ!

別紙1：地域資源等の概要(補足)

地域の歴史や文化について

～歴史的文化資産が重層的に存在する大阪城～

大阪城には石山本願寺時代から豊臣期、徳川期、近代に至るまでそれぞれに係る歴史的文化的な資産が重層的に存在している上、観光に関しても十分なブランド価値が築かれている。このように大阪城は、シンボル性、歴史性、物語性を兼ね備えた、国際観光拠点としての高いポテンシャルを持っている。

◎世界に誇る築城技術

現存する大阪城の石垣は総延長約12km、総石数100万個ともいわれ、江戸城・名古屋城と並ぶ大城郭。特に石材が花崗岩に統一された、高さ30mもの高石垣の連続は、我が国における築城技術の到達点を示す存在である。

◎数多くの文化財

公園エリア内には、天守閣や豊臣期石垣などの貴重な歴史遺産のほか、国指定の重要文化財が数多く分布。また近代建築として、もと市立博物館、大阪迎賓館、大阪砲兵工廠化学分析場跡がある。これらを有効活用していく。

◎地下に眠る豊臣時代の石垣

現存する大阪城の石垣はすべて徳川期のものであるが、本丸内の地下約1.5mから7.3mの深さには豊臣時代の石垣が埋まっている。この石垣を公開できれば、徳川期と豊臣期の大阪城を比較し体感することが可能となる。

◎今も残る戦争の爪痕

もと大阪市立博物館は旧中部軍管区司令部(第四師団司令部)として活用されていたほか、公園内には東洋一の軍需拠点といわれた旧大阪砲兵工廠があり、その化学分析工場が残る。また、城郭周辺には米軍による空襲の跡が多く残されている。

重層的に存在する大阪城の歴史的文化的資産



大阪城の世界に誇るブランド価値

●広く知られる日本有数の名城

大阪城は、豊臣秀吉が天下統一の拠点とし、また徳川時代には幕府の威信を示すために一度焼失した天守を新築するなど、天下人が日本の政治経済の拠点として活用した城である。大坂冬の陣、大坂夏の陣をはじめ、大阪城を舞台に展開された数々の物語は国民に広く知れわたる。

●古代より国際交流の拠点

大阪城・上町台地エリアは古代より海に開かれ、難波津時代からアジアとの交易をはじめ、中世・近世においては全国および海外との交易・交流が活発に行なわれた。西の丸庭園でのAPEC開催(1995)など、近年も国際交流拠点として役割をはたした。

●大阪市民の誇り

現在の天守閣は1931年、当時の大阪市長が再建を提唱し、それに応えた市民からの寄付金により建設されたもの。豊臣や徳川が建設した天守閣よりも長命で、国内で復興された天守の中では、最も歴史が古い。時の権力者が建設したものではなく、市民の自発的な意志により再建された大阪市民の誇りである。

別紙2: 特区申請エリアおよびその周辺地図

大阪城周辺の地理的条件

- ・大阪城は、上町台地と呼ばれる大阪市中心部の高台に建てられており、大阪の町全体を見渡せるなど大阪屈指の景観を誇る。
- ・大阪城公園周辺には、水都大阪を代表する中之島エリアや歴史文化豊かな上町台地があり、これらの地域と連携した回遊性ある観光メニューを提供することができる。
- ・大阪城公園周辺は、阪神高速道路や幹線道路などの道路網や、JR、地下鉄、私鉄(京阪電鉄)などの鉄道網が整備され、近隣都市はもちろん関西各地からのアクセスが容易である。

特区申請エリア地図



関西各地と大阪城との主な鉄道アクセス

